

～旧約聖書を読んで感じること～ (73) シェバの女王

ソロモンの知恵を試すためにやって来たシェバの女王とはどこの誰でしょうか。この女王は極め



シェバの女王の訪問 Sir Edward Poynter

て大勢の随員を伴い、ラクダの隊商を組み、香料、黄金、宝石を携えてやってきました。彼女は「主の御名によるソロモンの知恵」を聞きたいと願い、彼を試そうとしてやって来たのです。シェバは香料、黄金を産する国、あるいは流通させる豊かな国でした。後世にも、シェバという地名は幾度も聖書に記されています。現代の考古学の研究では、1200BC-275ADに栄えた、アラビア南部、現在のイエメンにあたる、マリブという都を持つセム系の「サバ文明」ではないかと言われています。シェバは地図



マリブの寺院の遺跡

を見るとエチオピアも含まれていますから、シェバの女王は、クシュ人(エチオピア)かもしれません。新約聖書にも女王が登場しています。エチオピアの女王カンダケの高官で、女王の全財産の管理をしていたエチオピア人の宦官が、エルサレムに礼拝に来て、(使 8:27)、フィリポがキリストを伝え、洗礼を受けました。



古代シェバの地域

古代にはエジプトでも、東洋でも、女性が統治者として活躍した例があります。日本では卑弥呼が最初の王として中国の記録に残っています。統治者が女性ということは、古代においても非常に魅力的なことだったと思います。ソロモンは権力と女性が大好き、従ってシェバの女王の訪問は彼の治世にとっても一大ハイライトとして記されているのでしょ

う。シェバの女王は「主の御名による知恵」とはどのようなものかと思い、ソロモンを訪ねたのです。シェバは月を礼拝していた国だったそうです。ソロモンが建てた神殿を見、ソロモンの信仰を知ったシェバの女王の口を通して、ソロモンの威光が褒め称えられています。

わたしは、ここに来て、自分の目で見るまでは、そのことを信じてはいませんでした。しかし、わたしに知らされていたことはその半分にも及ばず、お知恵と富はうわさに聞いていたことをはるかに超えています。あなたの臣民はなんと幸せなことでしょう。いつもあなたの前に立ってあなたのお知恵に接している家臣たちはなんと幸せなことでしょう。あなたをイスラエルの王位につけることをお望みになったあなたの神、主はたたえられますように。主はとこしえにイスラエルを愛し、あなたを王とし、公正と正義を行わせられるからです。(列上10:7-9)



Makeda, queen of Sheba(エチオピア)

シェバの女王は、息も止まるような思いであったと評されています。

彼女は見聞きした素晴らしさの結論として、重要なポイントを述べています。それは「イスラエルの神は民を愛し、公正と正義を行わせる神であること、その神のもとで民は非常に幸せである」というものです。これこそ、真の知恵だと聖書は伝えているのです。ソロモンの治世になって国際的にも、他の大国から一大国家として認められ、栄耀栄華だけでなく、神への信仰を賞賛されたのですから、ソロモンも信仰を守り続けられ、どんなに良かったことでしょう。